

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2016年度 第4号

1年の研究のとりまとめ時期となり、研究結果も出始めています。この研究成果を検討する「成果検討会」を、本稿の最後に記載したとおり計画しています。

中間検討会で実際の研究ほ場を視察された方、研究課題を見て興味を持たれた方、よろしければ出席いただき、ご意見やご感想を今後の研究に反映させていきたいと思っております。多くの方々の参加をよろしくお願ひします。



©岐阜県

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

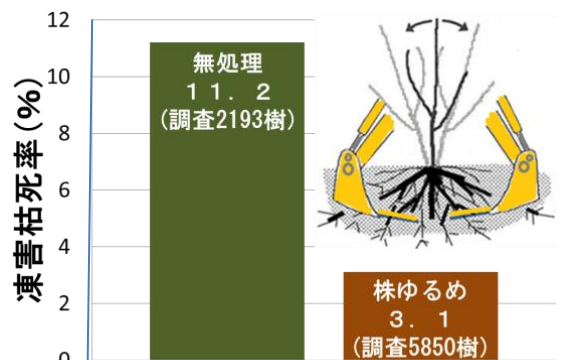
● クリ幼木の凍害抑制技術「株ゆるめ」の現地普及に向けて

恵那クリ産地では、ここ10年で50ha相当の新たな苗木植栽が進んできましたが、秋冬季の気候変動が大きな年（平成22年）に植栽した幼木の凍害枯死が多発し、産地拡大の阻害要因として問題となり、農研機構・兵庫県等との共同研究（平成23年～平成25年）により、凍害発生抑制技術「株ゆるめ」を開発しました。

「株ゆるめ」は、油圧ショベルに装着したフォーク型バケット等を株元に挿入し、樹全体を少し持ち上げ、軽い断根と土壌孔隙により吸水を抑え樹体水分の凍結を防ぐ技術です。

現在、生産者5戸で実践され、普及機関が中心となって効果の検証と講習を行い現地普及が進められています。特に、過去3番目の被害年となった平成28年春の株ゆるめ効果は大きく有効性が実証されました。当支所では今後も「既実践者がオペレータとして株ゆるめ作業を行う受委託システム」づくりの支援等を行ってまいります。

【支所果樹担当
磯村 秀昭】



現地実証園での株ゆるめ効果 (H27. 11処理)



開発技術習得のための株ゆるめ講習の様子

●「宿儺かぼちゃ」の機能性の探索

当研究所ではこれまで、飛騨地域特産の「宿儺かぼちゃ」について、小さな畑で最大の収穫量を得るための仕立て法や、食味や収量からみた最適収穫期、出荷時期について研究を行い、成果を上げてきました。

今年度からは大学と連携し、「宿儺かぼちゃ」の機能性（体の調子を整える機能）に着目した研究を新たに開始しました。独特の形状や良食味に加え、機能性が明らかになれば一層の需要が見込まれることから、新たな発見に向けて期待が高まっています。

【本所試験研究部長 袖垣 一也】



生育途中の宿儺かぼちゃ

●「リンゴのミツ入り果実を見分ける」技術開発

飛騨リンゴは消費者から人気があり、朝市、直売所、宅配や地元スーパーなどで販売されています。11月以降に旬を迎える「ふじ」や「飛騨」はミツ入り果実で人気が高いのですが、冬から春にかけて販売を続ける場合はミツの入っていない果実を選んで貯蔵する必要があります。そこで当研究所では、ミツ入り果実を見分けるために、「ミツ入りセンサーを用いた判別技術」と、長期間の貯蔵を行う方法の一つとして「雪を利用した貯蔵」を研究しています。

【本所果樹担当 水野 文敬】



雪室の外観と貯蔵リンゴ果実

● 今年度の研究成果を発表します。

■ 本所（試験研究成果検討会）

日時：平成29年2月15日（水）13時20分～

場所：飛騨市古川町総合会館2階大会議室

注）昨年とは会場が異なります

■ 中津川支所（合同成果発表会※）

日時：平成29年2月8日（水）13時00分～

場所：恵那総合庁舎5階大会議室

※恵那農林事務所農業普及課と共催



前回成果発表会の様子（支所）